

死んでも生きる

ヨハネの福音書 11 章 17-27 節

はじめに

ヨハネの福音書 11 章は、イエス様が「ラザロ」という人を死からよみがえらせるという奇跡が書かれています。ラザロには、「マルタ」と「マリア」という姉妹がいました。ラザロはおそらく、この二人の姉妹の弟だと思われます。彼らはすでに両親を亡くして、三人で支え合って生きていたようです。しかし弟のラザロが病気になり、死んでしまったのです。

イエス様と彼らは親しい関係にあり、イエス様は彼らを愛していました。ラザロが病気になった時も、二人の姉妹はイエス様の所に使いを送って、ラザロが病気であることを知らせました。しかし、イエス様が彼らの所に着いた時には、ラザロはすでに死んでいて、墓の中に入れられて、四日も経っていたのです。

当時のユダヤ人たちは、人が死んでから三日間は、その人の魂は遺体の近くにあると信じていたのです。つまり死んでから三日間は、生き返る可能性があると考えていたのです。しかし四日目になると、いよいよ遺体が腐り始めるので、魂は遺体から離れ、神様のもとに行くと考えたのです。つまり四日目になると、その人の死が確実なものとなるのです。イエス様がラザロの所に着いたのは、ラザロが死んでから四日経っていた時です。すでに遺体が腐り始め、ラザロが生き返る可能性は完全になくなり、ラザロの死が確実となった時でした。

イエス様が来られたと聞いて、マルタはイエス様を村の外まで出迎えに行ったのです。今日の聖書箇所には、大切な弟を亡くしたマルタとイエス様の対話が書かれています。

1. マルタの信仰とその限界

マルタは、イエス様にお会いすると、こう言います。「**主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。しかし、あなたが神にお求めになることは何でも、神があなたにお与えになることを、私は今でも知っています**」。マルタは、イエス様がこの場にいてくださったなら、マルタは死ななかつたと言います。「どうしてイエス様、この場にいてくださらなかったのですか」という悔しさが滲み出ている言葉です。マルタは、イエス様ならどんな病気も癒せることを信じていました。イエス様が神様に祈れば、神様はどんなことでも答えてくださる、どんな病気も癒してくださる、イエス様はそういう神様から遣わされた特別な方だと信じていたのです。

マルタの信仰は、ある意味で立派な信仰です。マルタのイエス様への信仰は、自分の願い通りにならなくても、ラザロが死んでもなお変わらないものです。しかしそれでも、マルタの信仰には限界があります。マルタは、イエス様にはどんな病気も癒すことができると信じ

ていましたが、死に対しては無力だと思っていたのです。死んでから三日以内ならまだしも、死んでから四日も経ち、すでに遺体が腐り始めている、そのように死が確実となった今となつては、いくらイエス様でもどうにもならないと思っていたのです。

ですからイエス様が「**あなたの兄弟はよみがえります**」と言った時も、マルタは「**終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることを知っています**」と言うのです。イエス様は、「今、あなたの兄弟はよみがえります」と言われたのに、マルタは世の終わりの時、つまり遠い将来にラザロはよみがえると理解したのです。旧約聖書にも、世の終わりの時に、死者がよみがえると書かれています（ダニエル 12：2）。ですから、一般的なユダヤ人は、世の終わりの時には、死者はよみがえると信じていたのです。そのような一般的なユダヤ人の理解として、マルタは、ラザロは遠い将来によみがえると言っていたのです。

マルタは、イエス様はどんな病気も癒すことができる、イエス様が祈れば、父なる神様はどんなことでも答えてくださる、世の終わりの時に、つまり遠い将来に死者はよみがえり、そういう信仰を持っていました。しかし、そのどれもラザロの死が確実となった今となつては、マルタにとって確かな慰めにはならなかったのではないのでしょうか。

2. イエスを信じる者は

では、そんなマルタに対して、イエス様は何と声をかけられるのでしょうか。25-26 節で、イエス様はこう言われます。「**わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか**」。イエス様は、まず「わたしはよみがえりです。いのちです」と言われます。これは、「わたしが人をよみがえらせ、わたしが人に永遠のいのちを与える者である」という意味だと思えます。続いてイエス様は、「わたしを信じる者は死んでも生きる」「生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません」と言われました。イエス様を信じる者は、死んでも生きる、また永遠に決して死ぬことがないとは、「肉体的ないのち」「医学的ないのち」のことを考えていると、意味がよく分からなくなります。なぜなら、イエス様を信じるクリスチャンでも、確かに死ぬからです。ですから、ここでのイエス様の言葉は、「肉体的ないのち」「医学的ないのち」のことではないと思えます。そうではなくて、「永遠のいのち」のことだと思えます。

イエス様を信じる人は、「永遠のいのち」を与えられます。その意味で、イエス様は「いのち」なのです。ヨハネ 20：31 には、こういう言葉があります。「**これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである**」。ここには、「ヨハネの福音書」が書かれた目的が書かれています。それは、私たちがイエス様を信じるためであり、信じた結果、「永遠のいのち」を得るためです。私たちが「永遠のいのち」を得ることが、神様の願いであり、イエス様の願いであり、さらには聖書が書かれた目的なのです。

「永遠のいのち」とは、「肉体的ないのち」「医学的ないのち」が永遠に続くものではありません。

ません。そうではなく、「肉体的ないのち」「医学的ないのち」とは、全く別のいのちです。イエス様を信じる人は、イエス様を信じた時から、二つの「いのち」に生きていますと聖書は教えているように思います。一つは「肉体的ないのち」「医学的ないのち」であり、もう一つは「永遠のいのち」です。「永遠のいのち」は、死んでから与えられるものではありません。イエス様を信じたその時から与えられるものです。イエス様は、ヨハネ 6：47 でははっきりとこう言われました。「**まことに、まことに、あなたがたに言います。信じる者は永遠のいのちを持っています**」。また I ヨハネ 5：12-13 には、こうあります。「**御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分らせるためです**」。ヨハネは、イエス様を信じている人は、永遠のいのちをすでに持っていることを、分かってほしいと訴えています。

私たちは今すでに、「永遠のいのち」を持っていて、「永遠のいのち」に生かされているのです。「永遠のいのち」は「決して死ぬことがない」いのちです。「肉体的ないのち」「医学的ないのち」のように、いつかなくなるものではありません。たとえ「肉体的ないのち」「医学的ないのち」がなくなっても、決してなくならないいのちです。だからこそ、「死んでも生きる」のです。「永遠のいのち」とは、神様との関係、イエス様との関係と言っても良いかもしれません。神様との関係、イエス様との関係は、死んで失ってしまうものではないのです。永遠に、決して失われるものではないのです。

おわりに

「永遠のいのち」は目に見えるものではありません。「肉体的ないのち」「医学的ないのち」は目に見えるものです。体が動けば、心臓が動いていれば、生きていることが分かるのです。しかし「永遠のいのち」は、目に見えないので、自分が持っているか持っていないか、自分は今「永遠のいのち」に生きているのかいないのかが分かりづらいのです。だからイエス様は、マルタにこう言われました。「あなたは、このことを信じますか」。「永遠のいのち」は、信じるもののなのです。

では、どうしたら「永遠のいのち」は与えられるのでしょうか。それは、27 節でマルタが告白したようなイエス様に対する確かな信仰を持つことです。「**はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております**」。イエス様を神様ご自身、また神の子、救い主と信じる時、誰でもその時から「永遠のいのち」を与えられ、「永遠のいのち」に生かされていくのです。星野富弘さんが書いた詩に、このようなものがあります。「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった」。

私たちは、単なる「肉体的ないのち」「医学的ないのち」に生きるのではなく、「永遠のいのち」に生きることが大切なのではないのでしょうか。「肉体的ないのち」「医学的ないのち」はやがて必ずなくなります。しかし「永遠のいのち」は永遠に決してなくなるらないのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちのいのちは儚いものです。しかしイエス様は私たちに、もう一つのいのち、「永遠のいのち」を与えるために、この世に来られました。このいのちは永遠に続くものです。儚いいのちがすべてであるかのように生きるのではなく、確かな永遠に続くいのちにこそ、私たちが生かしてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。